

第 10 回

川でつなぐる発表会

かいさいほうこく
開催報告

川でつなぐる発表会



川でつなぐる発表会

●平成 26 年 12 月 14 日 (日)

●所沢市立所沢小学校

新河岸川流域川づくり連絡会
新河岸川総合治水対策協議会



開催概要

■趣旨

新河岸川流域では、総合治水対策や水循環再生、多自然川づくりなどのいい川づくりに向けた取り組みの一環として、行政や市民団体、流域住民が情報・意見交換をする場として、「新河岸川流域川づくり連絡会」を開催しています。

川でつながる発表会は、「新河岸川流域川づくり連絡会」の活動の一環として、流域内の小学生から大学生までが行った、川や水、環境を対象にした様々な学習・研究、ボランティア等の活動の成果を発表し、意見を交換することで、学生たちが感じたり、考えたりしたことを知り、世代を超えた交流が生まれるきっかけをつくることを目的に開催するものです。

■開催日：平成26年12月14日（日）10：55～16：00

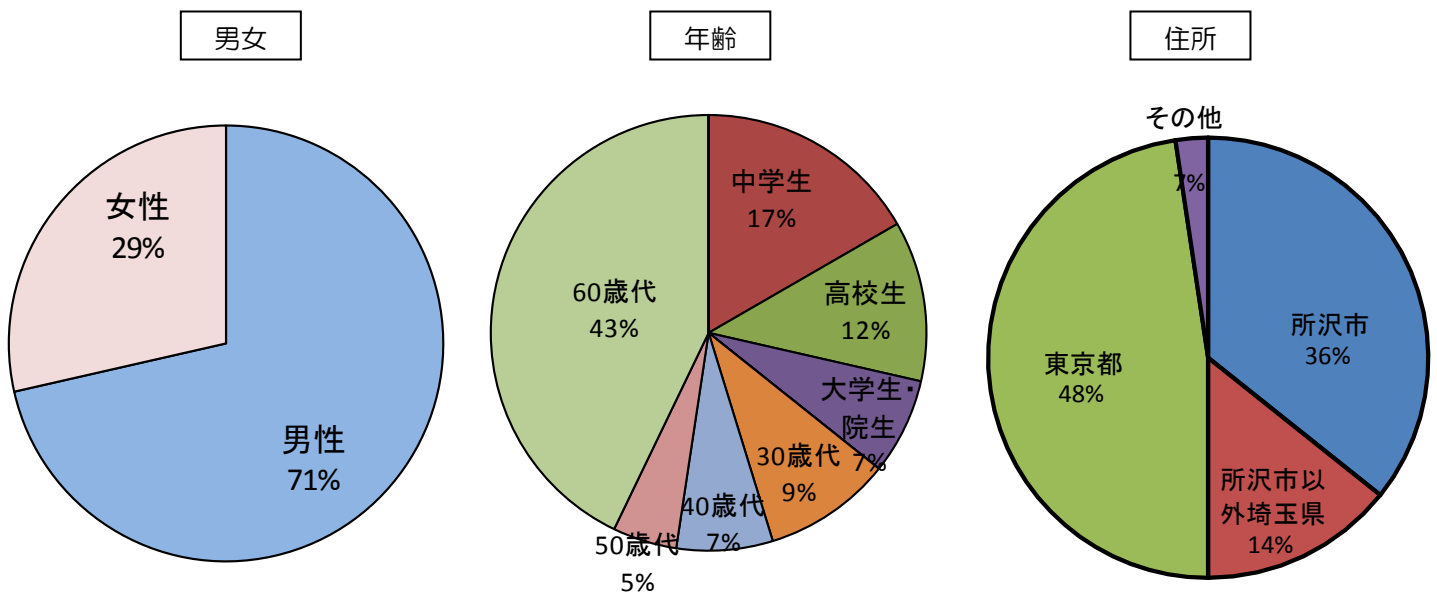
■開催場所：発表会本会場・交流会会場 所沢市立所沢小学校 体育館

■主催：新河岸川流域川づくり連絡会
新河岸川総合治水対策協議会

■参加人数：約183人（事務局除く）

■参加者構成比：

n=42（アンケート回答者）





■当日プログラム

時間	内容	当日の様子
10:30	受付	
10:55	開会 挨拶	午前の部（現地見学会）開会に先立ち、荒川下流河川事務所調査課長より「参加者同士交流をして、楽しんでいただきたい。」という挨拶がありました。
11:00	現地見学会	東川を愛する会の方による案内のもと、所沢市の水循環に関する歴史がわかる弘法大師の3つ井戸などの場所所沢市内の東川周辺の現地見学会を行いました。道中の東川地下河川の第3立坑のあたりでは、埼玉県川越県土整備事務所河川担当の方より地下河川工事の概要や治水効果について説明をしていただきました。 
13:00	挨拶	 午後の部（発表会・交流会）開会に先立ち、所沢市立所沢小学校の校長より、「所沢市では東川を活動の拠点とした学校が環境などをテーマとして活動している。今後も活動が活発になればうれしい。」という挨拶がありました。
	発表会 発表（前半） コメント 質問	発表会（前半）は所沢市立所沢小学校より「ところざわ自慢」、明法中学・高等学校より「明法科学部の活動（環境を考えた科学とものづくり）」、所沢市立東中学校より「豊かな心を育む東中環境活動」の発表がありました。 
13:55	発表会 発表（後半） コメント 質問	発表会（後半）は自由学園高等科より「校内を流れる立野川としのめ池 今年度の僕たちの活動」、法政大学水文地理学研究室より「身近な水環境一斉調査の水質分析結果から見た新河岸川流域の地域特性（3）」、グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢/ところざわ倶楽部地域の自然グループ/早稲田大学理工学部より「雑木林と湿地の保全」の発表がありました。 
14:45	交流会	今回は10回目の記念の発表会となるため、新河岸川流域川づくり連絡会事務局では、これまでの9回の発表会をふりかえる写真展やこれからの水循環再生に向けた取り組みを参加いただいた方々に考えていただく企画を実施しました。また会場内には、流域学校や川づくり団体による取り組みをまとめた力作ぞろいのパネル展示とあわせて、参加いただいた方々に体験しながら学んでいただく企画として、所沢市河川課による「水循環授業」、埼玉県大久保浄水場による「浄水場の仕組み」、法政大学水文地理学研究室による「適切な水質調査の方法」、新河岸川流域川づくり連絡会による「雨水浸透実験」が行われました。 
		クイズ答え合わせ/表彰状授与/総括
16:00	閉会 記念撮影	恒例の記念撮影は、学校や世代を越えてつながる一体感を感じさせる一コマでした。発表会にご参加・ご協力いただいたみなさま、どうもありがとうございました。 



発表校紹介

■所沢市立所沢小学校■

ふるさと所沢じまん



所沢市立所沢小学校からは、昆虫の特徴、とことこ池の魚、所沢の成り立ちなどについての発表がありました。2年生が八国山に行ったときに、いきものふれあいの里センターの方から教えてもらったことを紹介しました。カマキリは捕えた昆虫を逃がさないようにすべての足の先端に爪がついており、滑り止めの効果を果たしています。次に、4年生は校内にあるとことこ池に生息するコイとメダカについて紹介をしました。とことこ池には大きさが80cmにもなるコイが生息しており、一度に産む卵は20から60万個にもなります。メダカは、多くの種類があり、とことこ池では黒メダカを観察することができます。最後に、3年生は所沢の市章、小学校の校章、名産などを紹介しました。所沢には、かつて東川の両岸に「トコロ」という山の芋科の植物が群生していたことが由来となっています。市章、校章にもトコロの葉がデザインされており、校章には、粘り強くたくましくという思いが込められています。また、所沢は台地に位置し、水の便が良くなかったため、麦、サツマイモなどの栽培が盛んに行われました。麦を用いたうどんが名産になっています。また、水を得るのに苦心していた所沢の人々に井戸の場所を教えたといわれている弘法大師に感謝する祭りが毎年10月にあります。発表の終わりには、そのお祭りで披露した祭囃子と踊りを実演しました。

■明法中学・高等学校■

明法科学部の活動（環境を考えた科学とものづくり）



明法中学・高等学校からは、科学部の活動と野火止用水の水質調査についての発表がありました。科学部の活動として、ソーラーバイク、ソーラーカー、エコプラネタリウム、エコイルミネーションの写真などを紹介しました。環境に配慮し、エコイルミネーションは二酸化炭素を排出せずに実施したいとの思いから、100%太陽エネルギーを使用し、東村山市の富士見文化センター、所沢市役所のエントランスに展示をしました。野火止用水の歴史として、江戸時代に松平信綱により開削されました。科学部では、毎週水曜日に野火止用水の定期調査を行っています。調査方法として、採水方法と調査項目を紹介しました。バケツに川の水を入れ、その水をペットボトルに移して、教室に持ち運び、PH（水素イオン濃度）、COD（化学的酸素要求量）、NH₄（アンモニア濃度）、NO₂（硝酸イオン濃度）を測定します。最後に、身近な水環境一斉調査の日に測定したそれぞれの項目の数値を説明しました。



■所沢市立東中学校■

豊かな心を育む東中環境活動



所沢市立東中学校からは、東川の清掃活動についての発表がありました。まずは、学校の教育目標である「自立と貢献」、生徒会の活動コンセプトである「凡事徹底」を紹介しました。学校の目の前を東川が流れており、毎年7月に開催される東川の川まつりに参加し、地域の人や子どもとのふれあい活動を行っています。川まつりで実施される川の清掃やカヌーによる川下りの手伝いもしています。東川の清掃活動は、生徒に喜びを感じてもらうとともに、東川を地域の宝として大切にすることを醸成するために、毎年8月、2月に実施しています。今年も8月23日に実施し、過去最高となる約200人が参加しました。2月7日にも実施予定です。また、超東中を愛する会を立ち上げ、新1年生を迎える時期に校舎内の清掃もしています。さらに、新たな取り組みとして、節水の呼びかけもしています。今後も東川を大切にすることを続けていきたいです。

東川を愛する会 手島さん、川づくり・清瀬の会 宮澤さんによるコメント
発表後にコメントータから各発表者へ、以下のようなコメントがありました。

①所沢市立所沢小学校

- ・4年生のピオトープでの魚の観察力は素晴らしいと思います。
- ・所沢の歴史がお囃子とかたちで引き継がれていることに興味しました。
- ・トコロの中には毒があるものものあるとか発表の中に知らないことが多くあり、とても勉強になりました。

②明法中学・高等学校

- ・毎年参加をしてくれて、早くから自然エネルギーの重要性に着眼、ソーラーカーやソーラーバイクの開発や改良、子供たちが楽しそうにソーラーバイクに乗っている姿が印象的でした。
- ・LEDを使ったエコイルミネーション、毎年新しいものへの取り組みや改善、私たちが発表を楽しみに参加しています。
- ・空堀川、野火止用水水質調査の継続その積み重ねに興味深く学ばせて頂きました。

③所沢市立東中学校

- ・東川の川まつりや清掃活動の参加にあたって、生徒会など活動の中心となる団体があるのは良いことだと思います。
- ・超東中を愛する会では、校内清掃など川以外の場所も清掃していることが素晴らしいと思います。
- ・将来的に近隣の皆様を巻き込んだ清掃活動に広がるかもしれないと思いました。



■自由学園高等科■

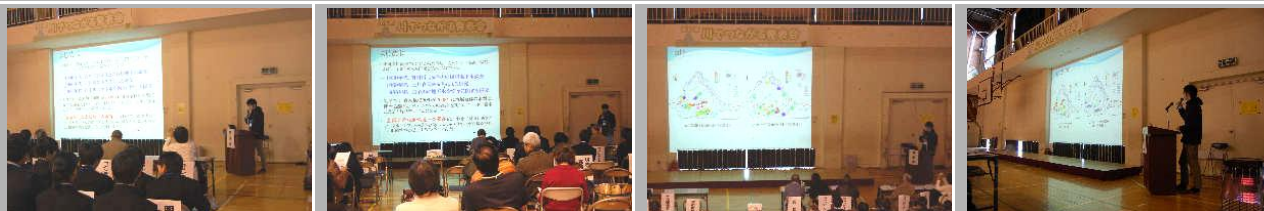
校内を流れる立野川としののめ池 今年度の私たちの活動



自由学園高等科からは、日々の活動、新河岸川水系身近な川の一斉調査、しののめ池生物調査についての発表がありました。自由学園は、校内に川が流れている珍しい学校です。川管理グループの日々の活動は 2 つあります。1 つ目は、毎日 15 時に行っている立野川の水温、流量測定、気象データの確認です。6 月の豪雨時にも調査を継続して行っており、概ね豪雨の 2 日後に流量が最大となりました。2 つ目は特定外来生物の駆除です。立野川に生息する特定外来植物であるオオカワチシャとオオフサモの駆除を行いました。次に、新河岸川水系身近な川の一斉調査の発表では、十年以上にわたり、調査に参加しており、今年は 15 地点の水質検査を行いました。最後に、しののめ池生物調査の発表では、3 年前に放流したアブラハヤ、オイカワ、カワニナが確認できませんでした。生物の生育に必要な環境がなかったと考えられます。また、生物調査を行った翌日に、約 200 匹のメダカが水上に浮遊しているところが発見され、調査の際に藻類をまきあげて、水中が酸素不足になってしまったのではないかと原因を考えました。

■法政大学水文地理学研究室■

身近な水環境一斉調査の水質分析結果から見た新河岸川流域の地域特性（3）



法政大学水文地理学研究室からは、身近な水環境一斉調査の水質分析結果から見た新河岸川流域の地域特性についての発表がありました。新河岸川流域の水環境に関する研究は 1930 年代の浅層地下水調査にはじまり、近年では 2008 年に流域全体の水質に関する調査を行い、生活排水と農業の施肥窒素の影響を示しましたものがあります。近年の研究を進めるため、全国身近な水環境一斉調査（2013・2014）にあわせて、EC（電気伝導度）と PH（水素イオン濃度）などを計測して流域の地域特性を把握することを目的に活動しています。RPH（十分に空気を通して計測した PH）と PH の差がある地域は河川に地下水が多く入りこんでいると考えられます。地下水は土壌中の生物作用により、二酸化炭素を多く含む水になっているからです。次に、COD（化学的酸素要求量）と TOC（全有機炭素）について、一般的に両者は比例の関係にあるが、今回の測定では精度が甘くあまり地域差がなかったため、今後も継続して計測していくことが重要になります。次に生活排水について、Na および Cl イオンの濃度によって人間の活動（生活排水）を把握することができます。水量の大小によってイオン濃度も変化するため、水質調査は調査地点を絞り、継続的に実施していくことが今後の課題となります。



■グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢/ところざわ倶楽部地域の自然グループ/早稲田大学理工学部■

雑木林と湿地の保全



グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢/ところざわ倶楽部地域の自然グループ/早稲田大学理工学部からは、雑木林と湿地の保全について発表がありました。所沢の土地は火山灰で栄養分が少なく、大きな川がない武蔵野台地上に位置しており、水を得る条件があまりよくなかったため、雑木林が大切にされてきました。7年前から、早稲田大学キャンパス内にある湿地・雑木林の保全活動をしています。早稲田大学の進出に伴う反対運動で、地域の方々に緑を残す運動が高まりました。グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢の会員は、現在66名です。保全活動は生物多様性にもつながり、ただ生息する生物の種類が多いというだけでなく、生活できることが大切である。林は緑のダムとも呼ばれ、降った雨の89%は一度地下に蓄えられます。丘陵地が浸食されて形成された谷状の地形である谷戸が残っているのは東京都で16か所、埼玉県は11か所で、そのうちの3か所が早稲田大学のキャンパス内にあります。比較的によく残っている所沢の緑を守っていくためには、資金面の運用が今後の課題となります。

柳瀬川流域ネットワーク 鈴木さん、黒目川流域川づくり懇談会 藤井さんによるコメント
発表後にコメンテータから各発表者へ、以下のようなコメント・質問がありました。

④自由学園高等科に対するコメント

- ・10年以上前から水質調査に協力していただき感謝しています。
- ・毎年継続して活動が行われており、しっかりと後輩に受け継がれていることが素晴らしいと思います。

⑤法政大学水文地理学研究室に対するコメント

- ・2年前から、一斉調査に本格的に参加、役に立つ指導をいただき法政大学の方々に感謝しています。
- ・発表の中の今後の課題にあったように、測定ポイントを選定する機会があれば良いと思います。また、一斉調査の参加者は、できるだけ同じ方法で水質調査を実施しなければならないと思いました。
- ・問題になっているのがどの河川のどの箇所かわかるように拡大した図をプログラムにも掲載していただけるとわかりやすくて良いと思いました。

⑥グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢/ところざわ倶楽部地域の自然グループ/早稲田大学理工学部に対する質問

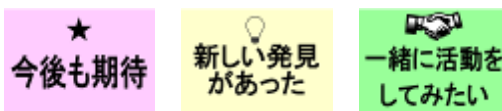
- ・早稲田大学が誘致されたときに活動をはじめられましたか。
- 所沢市民大学で講義をはじめて、2年目でグリーン・フォレスト・ネットワーク所沢の方々からも地域が良くなるならば、お手伝いしたいと話をいただき、後押しとなりました。小さな緑が適当なところに残っていることに価値があると考えています。



感想カード

各団体の発表の後、参加者のみなさんには、事務局が準備した感想カードから発表への感想に最も近いものを選んでいただき、発表者に向けて掲げていただきました。

＜事務局が準備した感想カード＞



<p>所沢市立所沢小学校</p>	<p>＜多かった感想＞</p>  <p>新しい発見があった</p>	<p>明法中学・高等学校</p>	<p>＜多かった感想＞</p>  <p>今後も期待</p>
<p>所沢市立東中学校</p>	<p>＜多かった感想＞</p>  <p>今後も期待 一緒に活動してみたい</p>	<p>自由学園高等科</p>	<p>＜多かった感想＞</p>  <p>新しい発見があった</p>
<p>法政大学水文地理学研究室</p>	<p>＜多かった感想＞</p>  <p>今後も期待 新しい発見があった</p>	<p>グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢 とろざわ倶楽部地域の自然グループ 早稲田大学理工学部</p>	<p>＜多かった感想＞</p>  <p>一緒に活動してみたい</p>



○現地見学会

東川周辺を散策し、所沢の歴史や東川地下河川工事の概要を紹介！



所沢市立所沢小学校を出発し、野老山實蔵院、弘法橋傍の井戸、東川総合治水対策地下河川区間の第3立坑、新光寺の順に歩きました。各地点で、東川を愛する会の方に説明をしていただきました。見学会の最初は、所沢は水に不便な地域であり、ところざわへは嫁にやるなど言われていたという話など地理的、歴史的な特徴について説明がありました。次の地下河川区間のはじまりの地点では、川越県土整備事務所の方に協力をいただきました。地下河川工事の長さや深さ等の概要、市街地工事のため工夫した点、工事実施後の治水効果等についてパネルを用いてわかりやすく説明がありました。最後に、かつては台風や豪雨時に頻繁に浸水していた新光寺の周辺を通過し、学校に戻りました。

○交流会（パネル展示・クイズラリー・水循環授業・適切な水質調査の方法・浄水場の仕組み・雨水浸透実験）

水や川・環境に関わる各団体の活動を展示！



パネル展示では、10回目ということで、これまでの発表会をふりかえる展示やこれからの水循環再生について考えさせる展示がありました。また、交流ブースというはじめての試みで、法政大学水文地理学研究室、埼玉県大久保浄水場、事務局より参加者とふれあう企画を行われました。法政大学のブースには、日頃より水質調査をしている人から興味を集め、意見交換が行われていました。大久保浄水場のブースには、普段はなじみのない浄水場のこと勉強したい人が、パネルなどを通して、浄水仕組みを理解されていました。事務局のブースには、川で活動している発表者が中心に集まり、土壌による吸水効果を目で見て勉強していました。さらに、所沢市河川課より、水循環、貯留浸透事業、雨水浸透ますの材料無料支給制度について講演がありました。



○交流会（クイズ答え合わせ・表彰状授与・総括）

水や川・環境に関わる各団体の活動を展示！



発表会の最後には、表彰状授与式および総括が行われました。表彰状授与に先立ちまして、荒川下流河川事務所里村事務所長より、「午前の現地見学会、午後の発表会を通して、川に対する理解が深まったことと思います。私も長らく川に関わる仕事をしていますが、今日の発表は、力作ぞろいだったと感じています。これからも継続して活動を続けていただきたい。」というお言葉をいただきました。続いて、各発表校の代表者に対して、賞状の授与が行われました。その後、新河岸川水系水環境連絡会より、「午前は、天候にも恵まれ見学会日和になったと思います。発表会で発表される方は活動成果をまとめる過程で、地域の特性や問題が理解できるので、継続した活動が地域に貢献する力になっているのかと思います。10年一区切りというが、20年、30年と続けていくことで、参加者が活動している地域がもっと良くなると思います。このような活動を少しでも多くの人に知ってもらえるように、表彰状を学校に持ち帰った時に、友達にこんな発表したと伝えていただければありがたいです。」という総括をいただきました。



パネル展示の様子

◆展示いただいた団体◆

- あさか環境市民会議
- NPO 法人エコシティ志木
- 川越の魅力を育てる会
- ところざわ倶楽部地域の自然グループ
- グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢
- 所沢市立上山口中学校
- 北区立岩淵小学校
- 北区立浮間小学校
- 国土交通省 ^{あらかわ} 荒川下流河川事務所
- 所沢市河川課
- (社) 雨水貯留浸透技術協会
- 新河岸川流域川づくり連絡会 ^{しんがし}



あさか環境市民会議



北区立岩淵小学校



NPO 法人エコシティ志木



北区立浮間小学校



川越の魅力育てる会



国土交通省 あらかわ 荒川下流河川事務所



ところざわ倶楽部地域の自然グループ



所沢市河川課



グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢



(社)雨水貯留浸透技術協会



所沢市立上山口中学校

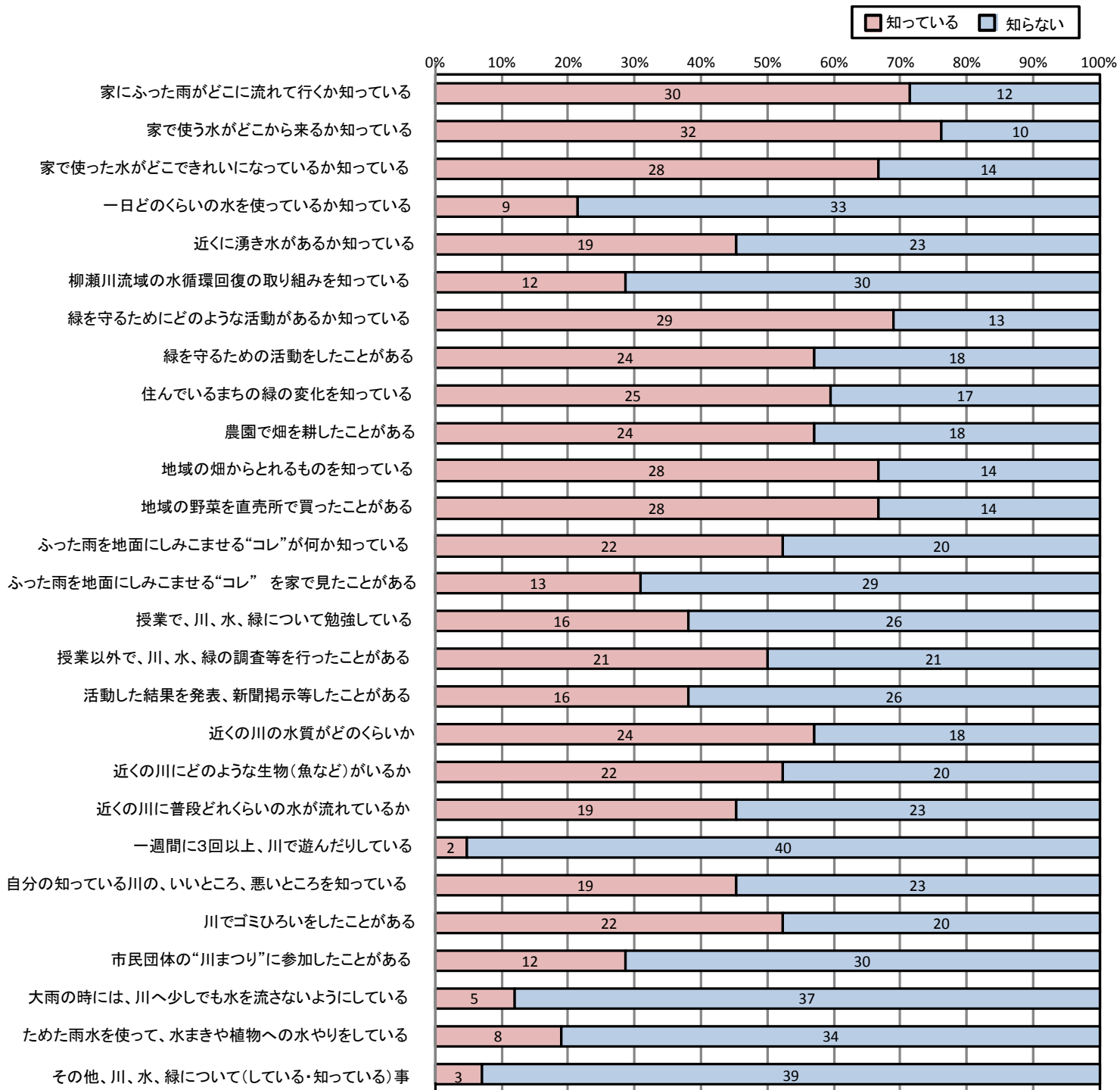


しんがし
新河岸川流域川づくり連絡会



しんがし
新河岸川流域水循環再生検定試験（学生版）結果

参加者の方々が、「水循環再生についてどのくらい知っているか?」、「水循環に関する活動をどのくらいしているか?」について回答いただいた「新河岸川流域水循環再生検定試験（学生版）」は以下のような結果となりました。

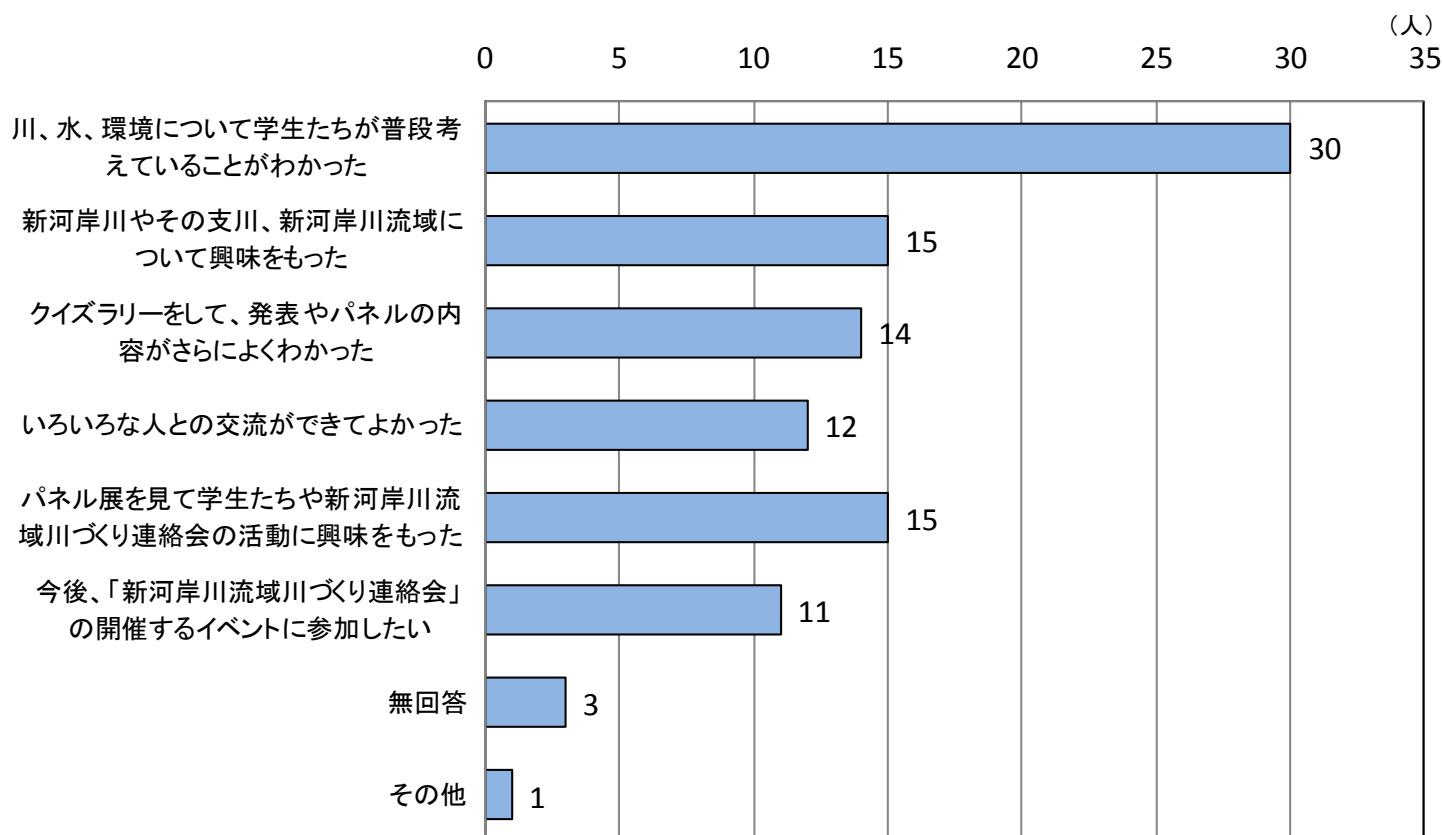


- ①地域の水循環・緑地保全・河川（水質・生物等）に関する理解、緑地保全に関する取り組みについては、比較的高い値となっています。
- ②河川利用や大雨への配慮、雨水利用については、比較的低い値となっています。



発表会を終えて（アンケート結果）

発表会についてどのような感想をおもになりましたか？



◆参加者の声◆

- 日々の活動を発表でき評価していただけるので良いと思った。
- 河川の美しさはこのような運動に支えられていることを知りました。
- 将来を担う子供が自然を愛し活躍を続けていることに感動した。
- 普通に生活していたら、まったく体験することがない活動ができたのでとてもおもしろかった。
- 初めて参加しましたが今日で川にとっても興味を持ちました。
- 学生の団体、地域での活動団体が活動を共有することはとても良いと思う。さらに色々な高校の参加が見られると良い。



みなさん、本当にありがとうございました。発表会を通じて、新しく知ったことや新たなつながりを流域全体へとつなげていきましょう。

